

門真四中だより

「つながる」「わかる」「切り拓く」

令和4(2022)年11月29日

第51号

編集・発行：校長 上甲 尚

知的障がいのある方と地域清掃を行いました



25日(金)の午後、知的障がいのある方が通所する施設「たけのこ」(門真市岸和田)の方々と四中生(生徒会執行部、男女バスケットボール部および有志)、教職員で四中、脇田小周辺のごみ拾いをしました。40名あまりの生徒の皆さんがボランティアで参加してくれ、有意義な取り組みになりました。本当にありがとうございます。

個人的な話で恐縮ですが、当日参加した「たけのこ」に通所している方の中に、私(上甲)が二中で新任から3年間持ち上がった学年の卒業生がいました。私は残念ながら出張と重なってしまい、清掃活動に参加できなかったのですが、当日の午前中「たけのこ」にごあいさつに行ってきました。その際に、懐かしい再会を果たすことができ(30数年ぶり?)、本当に嬉しかったです。門真に在住しておられる障がいのある方々とこのような形で交流する機会を持つことは、なかなか経験できることではありません。施設の方もとても喜んでおられました。



社会を構成する人は、多様性に富んでいます。性別や国籍、肌の色、信仰する宗教の違いや障がいの有無にかかわらず、お互いを認め、尊重し、排除せずに共生する社会を「インクルーシブ社会」といいます。「インクルーシブ」とは「包括」という意味です。つまり「インクルーシブ社会」とは、「すべての人々が尊重し合い、支え合う共生社会」ということです。誰もが安心して暮らすことができる社会の実現をめざしていきましょう。

「障がい者週間」(12/3~12/9)

毎年12月3日~12月9日は「障がい者週間」で、各自治体で様々な取り組みが行われています。「障害者基本法」という法律に、「国民の間に広く基本原則に関する関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加することを促進するため、障害者週間を設ける」と定められています。

「門真市では、障がい者手帳を持つ方が15人に1人の割合で暮らしています。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、障がいへの理解を深め、互いの人格や個性を尊重し、支え合うことが大切です。市では、障がい者週間にあわせて街頭キャンペーンや演奏会を実施します」(「広報かどま12月号」から抜粋)。

3年生「性について考えよう」



3年生は昨日(28日)の5・6時間目、助産師の吉田吉香さん(松下記念病院)を講師にお招きし、性教育を行いました。「性について考えよう」という演題で、わかりやすくお話をいただきました。みんな真剣に話を聞いていましたね。お話の概要は以下のとおりです。

*将来の「夢」はありますか?

*助産師の仕事とは、出産の介助、妊婦の相談、妊娠から産後までの母子の保健指導や育児の相談を行います。

*中学生の今、好きな人がいるのは自然なことです。

*好きな人と話をしたい、触れたい、ハグをしたい...は自然な気持ちです。性欲は自然なことです。イコール性行為をしてもよいということではありません。

*お母さんは命がけて赤ちゃんを産むのです。

*嫌なことは嫌と言える人になろう。思いやりの心を持ち、責任のある人になろう。

*新生児で亡くなった赤ちゃんがいた。一生懸命蘇生をしたが、どうしても救えなかった。そのお母さんがまた妊娠して、(一生懸命やってくれて、みな涙を流してくれた)同じ病院で出産したいと言ってくれた。うれしかった。

*中学生の間は好きな人と適切な付き合い方をしましょう。責任がとれないから。

*避妊に関して誤った情報が流布しているので気をつけましょう。

*相手の同意がない性行為の強要は犯罪になります。

*たくさんの出産のお手伝いをしてきた。出産の時のお母さんの笑顔、家族の喜ぶ姿が一番うれしい瞬間なのです。

*お母さんが命がけて産んでくれたから、今ここにいます。生まれてきたこ

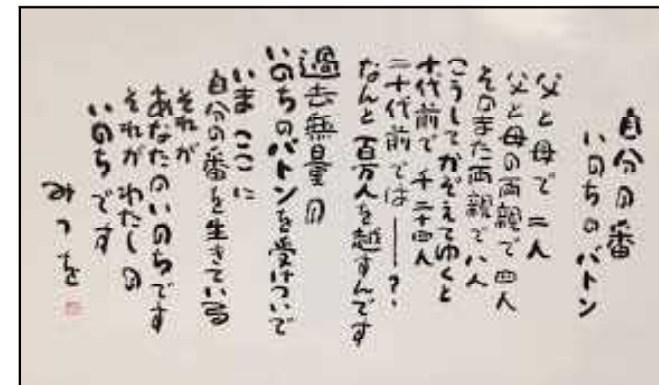


とは奇跡なのです。

*言葉で人を傷つけたり、命を奪うこともある。

*自分を大切にしてほしい。周りの人を大切にしてほしい。好きな人を大切にほしい。

*自分の命を大切にしてほしい。人の命も大切にほしい。



◎クラブ頑張りました!

・男子テニス部 11/26 門真市新進大会

第3位 ○○○○さん(2-1)、○○○○さん(2-3)ペア